

July.2025

NEWS

04



情報処理学会にて 学生奨励賞を受賞

3月13日から15日に立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催された情報処理学会第87回全国大会で、総合理工学部機械・電気電子工学科（受賞当時）の荻果光さん（指導教員：伊藤史人）が「重度障害児のスイッチ練習を促す療育支援ゲームアプリの開発」で大会学生奨励賞を受賞しました。この賞は、学生セッションで発表された学生会員の中から、座長の裁量により特に優れた発表に贈呈されるものです。

▶「徒競走」
ゲームアプリ▶「野球盤」
ゲームアプリ

NEWS

01



材料エネルギー学部 アントレプレナーシップ教育 最終発表会を開催

1月20日と21日、材料エネルギー学部で「アントレプレナーシップ教育」の最終発表会を開催しました。この教育は、起業のためだけでなく、大学の研究成果を社会実装するためのマインドとスキルを学生と教員が共に学ぶことを目的としています。1年生は教員の研究に基づくビジネスプランを発表、2年生は1年次のプランを更に深めた発表を行いました。学生からは、顧客のニーズを事業に繋げる難しさや、試行錯誤を通じた新たな工法発見の経験なども語られました。県内外の企業や県知事も参加し、関心の高さが伺える発表会となりました。



NEWS

02



令和7年度島根大学入学式を挙行

4月2日、島根大学入学式を「くにびきメッセ」で挙行了しました。今年度は、全学部・大学院合わせて1609名の新生が新たな学生生活をスタートさせました。式典では、大谷学長が新入生全員への入学を許可。式辞では、「都会の喧騒や情報過多から離れ、豊かな歴史と文化、自然に恵まれた島根の地でこそ、これからの時代を担う皆さんが、世界的な課題を主体的に捉え、教職員と共に考え、議論し、学び、解決策を探っていくべきである」と述べました。ご臨席いただいた



た丸山達也島根県知事からは、「学部活動だけでなく、多様な学部生との交流を通じて、自身の専門分野以外のことに興味を持ち、幅広い視野を養ってほしい。新入生の皆さんの島根大学での学びが実り多いものになることを心から願っている」と祝辞を賜りました。また、式では新入生代表の村上奈風美さん（教育学部）が宣誓書を読み上げました。さらに、先輩の模範として、「第75回三十三間堂大の全国大会」成年男子の部で優勝した加藤大雅さん（教育学部）の表彰も行いました。

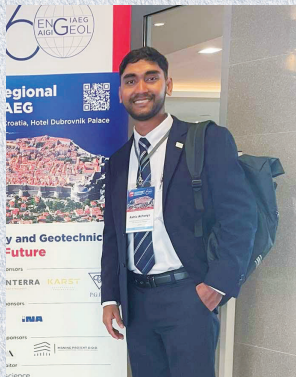
NEWS

03



Ashis Acharyaさんが 国際地質エンジニア教育 プログラムの参加者に

自然科学研究科創成理工学専攻のAshis Acharyaさんが、カナダで開催されるGeoRAプログラム（地質エンジニアリング・地質科学研究加速プログラム）の参加者に選出されました。このプログラムは、世界的な地質コンサルタント会社BGCエンジニアリングが主催し、世界中の応募者から最大10名が選ばれます。Ashisさんは100名を超える応募者の中から選ばれました。この先端的な教育プログラムでは、参加者が最新技術を学ぶだけでなく、互いの知識や技能を共有し、研究のさらなる発展や新たな方向性の開拓を目指します。6月9日から8月22日まで、カナダ・バンクーバーで開催される予定です。



NEWS

05



100日間咲き続けるツツジ の新品種を開発しました

生物資源科学部は、花色変化を伴い約100日間にわたり開花が持続するツツジの新品種を開発し、4月24日にしまね花の郷（出雲市）で記者説明会を行いました。

江戸時代からのツツジ品種が持つ「見染性（みそめしう）」と呼ばれる形質の遺伝子研究と品種改良の結果、長期間開花する見染性形質に二期咲き等の魅力的な形質をあわせ持つツツジ新品种の育成に成功しました。「見染性」新品种では、気象条件に左右されず4月下旬から6月まで花が持続する新たなツツジとして期待され、花き生産者での試験栽培が行われています。

島根大学発の新品种として現在3品種が品種登録申請中です。



NEWS

06



インド政府から本学にラマン博士の胸像を 寄贈いただきました

インドの物理学者で1930年にアジア人として初めてノーベル物理学賞を受賞したC. V. ラマン博士の胸像がインド政府より寄贈され、5月12日に松江キャンパスにて除幕式を行いました。

除幕式には大谷学長、シビ・ジョージ駐日インド大使、上定昭仁松江市長ほか約60名が出席しました。

胸像は高さ80センチ、1メートルの台座に据えられており、多くの学生が行きかう学生市民交流ハウス（FLAT）横に設置されました。

島根大学ではラマン博士が発見したラマン分光法を応用して多数の研究を推進してきました。また、2013年に設置した「医・生物ラマンプロジェクトセンター」を中心



に、研究だけでなく教育、国際協力の各方面における活動に発展させてきたこれまでの実績がインド政府に評価され、今回の寄贈となりました。式典で大谷学長は「本学での研究がインド政府に認められ誇らしい。この胸像が、本学の若き研究者や学生たちに科学の魅力と探究心を伝え続け、ラマン博士の精神を永く語り継いでほしい」と述べました。シビ・ジョージ大使は「研究分野の交流がより広がってほしい」と挨拶されました。その後、関係者による除幕が行われ、胸像の寄贈を祝いました。

